



原 田 康 平 教 授 近 影



江 藤 彰 彦 教 授 近 影

献 辞

本号は、原田康平先生および江藤彰彦先生の退職記念号として発行するものである。

原田康平先生は、1981年に、久留米大学医学部に採用され、その後、1987年に商学部に、情報教育担当として移籍され、さらに、1994年の経済学部への改組に伴い、経済学部所属とされた。医学部在籍当時から、脳波など医学データの分析に取り組んで来られたが、商学部および経済学部においては、本学における情報教育の中心的役割を果たしてこられた。また、経済学部に移られて以来、ご活躍の場はさらに広がり、1996年にはじまった、中国社会科学院との社会経済国際シンポジウムにおいては、中心的役割を持つ一人として関わっていただいております、また、研究面においては、医学部当時から手がけられてきた医療データ等の分析手法を応用しての、経済データの分析、さらに、人口分析などに取り組んで来られている。さらに、大学運営面においては、入試データ分析やIRなどにも早くから取り組んでいただいております、さらに、学生データなどの評価・予測にご尽力いただいた。さらに、2003年～2007年にわたって、経済学部長として、経済学部をリードしていただいた。18歳人口の動向と大学の経営、行く末をいつも心配しておられ、提言を続けておられていた。このたび定年退職されることになったが、これからも、名誉教授、比較文化研究科客員教授、非常勤講師として、当面の間お世話になることになっている。

江藤彰彦先生は、1991年に本学商学部に着任され、1994年の経済学部への改組に伴って、経済学部の教員とされた。日本経済史、特に江戸時代を専門としておられるが、インドネシアにおける移住・開発過程の定点観測など、アジアを歩くことを通じてより豊かな江戸時代像を描く試みを続けられてきた。大学運営にあたっては、2007年～2011年の間経済学部長として、経済学部の運営にあたっていただき、さらに、2015年～2017年の間、付属図書館長を務めていただいた。2017年の朝倉豪雨災害の時は、いち早くボランティアを組織して、復旧作業に関わられている。2018年3月定年となられ、現在、名誉教授、特任教授として、さらにご指導いただいている。

両先生とも、まだ最前線の現役とっていいくらい元気で活躍しておられ、これからもさらなるご活躍が期待できる。経済学部におけるお二人の功績は多大であり、ここに、両先生の長年にわたる功績に感謝し、『経済社会研究』の退職記念号を発行する次第である。